

News Letter

種の同定

日々これ勉強の毎日

私も植物の調査に携わり、はや何年かになります。いろいろな地方に調査に赴くたびに新しい発見があり、日本の植物の多様さに驚く日々が続いています。

この職業について良かったと思うのは、人気のない山中や広大な平原を車で走っていて、一般の人は「何にもないな」という場所でも、路傍の植物のおかげで全く退屈しないことです。どこを歩いても周囲に生えている植物に反応する上、ホームセンターに行っても園芸コーナーに足が向くことが多い…これは明らかに職業病ですな。

日々の調査では、現地で分かるもの以外植物のサンプルを持ち帰り、図鑑や今までの記録等と首っ引きになって種類を決定し(これを同定するといいます)新聞紙等で押葉にしてから乾燥させます。たまに確認した植物全てを取らなければならない仕事があるのですが、数百種類取らなければならないので、その標本の多さたるや、ただごとではありません。百合根のように大きい根茎を持つ植物などは、その根をスライスしたりして標本にします。新聞紙5枚分を占める巨大なシダ類なども一苦労です。標本作成は確



ホソバイラクサ

実な同定を行うと共に、後で見直すことが可能な「生物の分布を表すデータ」の構築に繋がるため、非常に重要な作業です。最近では標本のカラーコピーを写真代わりに掲載している植物誌なども発行されています。

今はやっていないのですが、これら

の標本のうち、花や実がついているような状態の良いものは博物館に収めなければと考えています。また、仕事とはいえ殺生をしているので供養もしなければと思う今日この頃です。望ましいのは標本を採らずに全て見極める人だと思いますので。

最近、植物を同定するとき一番困るのが帰化植物です。帰化植物の図鑑類は今でこそある程度発行されていますが、年々新たな種類が確認されていくうえ、今まで日本に生育している在来種との区別点が系統化されていない事が多いのです。日本に入ってくる外国の植物もありますが、日本の植物も多く海外に出て行っているようです。アメリカで広がっているクス等が代表格ですね。国内の植物も外国に行くとかかなり自由奔放になるようで、普通1mぐらいまでにしか育たないエノコログサ(俗名ネコジャラシ)類もアメリカの広大なトウモロコシ畑では3m以上になるようです。日本で増えている帰化植物も本国のものとは趣が違うのかな?と考へたりします。

なんにしても日々これ勉強の毎日です。

(大阪支社自然環境研究室・松原徹郎)

目次

エッセイ	種の同定	1
業務紹介	代償ミティゲーション	2
マンガ	調査員物語	5

Information	北海道の外来種リスト	6
	ある日のフィールドノートから 理想と現実	8